

ハートフル・コメディ

家族百景

作・広島友好

第七景『恋、おばあちゃんの』(雨の神宮外苑編)

○時 ……今(戦後六十数年)

○場所 ……主に百山家の居間

○登場人物

百山翼 (ももやまつばさ)

百山幸子 翼の母(さちこ)

百山愛 翼のおばあちゃん

杉下桂 愛の幼なじみ

坂田絹 愛の幼なじみ

坂田澄子 絹の娘

*台詞はそれぞれの地域の生活語に直してもらって結構です。
(作者)

翼
（独白）おばあちゃんには親友がいる。むかしの幼なじみで、付き合いは十年になる。
親友ってなに、て聞くと、なんでも隠し事しないのが親友だよって。そんな友だち今いないじゃん。だからちよつとうらやましい。

愛と桂がお茶を飲んでいる。年寄り二人。茶飲み話。

愛 早いねえ。

桂 早いねえ。

愛 もう花見だつて。

桂 桜がねえ、満開。

愛 この前お正月かと思つたら、

桂 花見の季節じゃものねえ。

愛 じきに木の芽時になって、梅雨が来て、夏が来て、

桂 すぐ秋よねえ。んでまた寒うなつて。

愛 お正月じゃねえ。

桂 そんなもつてまた桜の季節が来る。

愛 早いねえ。

桂 早いねえ。

ト二人茶をすすする。

愛 あれ。でもちよつと雨が降ってきたんじゃない？
桂 ほんとしゃ。

雨の音。

愛 散るかねえ？ 桜。
桂 どうじゃろね……。

間。

桂 ん？（家の中が）静かじゃねえ？ あれ？ そういえば幸子さんは。

愛 出かけちよるの、翼と。

桂 翼ちゃんど？

愛 今度高校生でしょ。その準備でなんやかんや買い物して来るって。高校生。翼ちゃんが。もうそんなになるの。生まれたばっかしじやと思つちよつたけど。早いねえ。

愛 早いねえ。

幸子、帰ってくる。

幸子 ただいま。あら、桂のおばちゃん。いらっしやい。

桂 はい。お邪魔してますよ。ねえ、幸子さん。翼ちゃん、高校生になっただんて？

幸子 そうなんですよ。

桂 おめでとう。

幸子 ありがとうございます。

桂 (鞆を探り) お祝いあげんといけんねえ。

幸子 あ、いいんですよ。

桂 (鞆を探りつつ) でもねえ。

幸子 ホントに。

桂 あとでなんか言われても。(鞆の中身を次々と取り出す) 桂のおばちゃんはケチじやったとか。

幸子 やだ。言いませんよ、そんなこと。気持ちだけで。

桂 でもねえ。

幸子 気持ちだけで、充分。ね。

桂 あ、そう？(あっさりとしまう) じゃ、かえって迷惑になってもいけんからね。

幸子 ハハ……。

愛 翼ちゃんは？

幸子 うん。今部屋。すぐ来る。

桂 でも早いねえ、翼ちゃんが高校生。

幸子 ホントに。

桂 歳取るわけじゃ、わたしらも。

愛 あとは翼が大学行って、ええ会社入って、嫁さんもううて、孫の顔が見られれば、いつ死んでも悔いはない。

桂 そりゃあんた、とうぶん死ねりゃあせんでね。

愛 ホントじゃ。ハハハハ。

桂 ハハハハ。

愛と桂、ほがらかに笑う。幸子もお愛想笑い。

幸子 ホント二人、元気よねえ。感心しちゃう。仲もいいし。

桂 ほうかね。

幸子 ずっと一緒でしょ。子どものころから。

愛 小学校からね。

桂 小学校からかいね？ もっと前からじゃろ？

愛 もっと前からかもしれないねえ。

幸子 それからずっとでしょ？
桂 戦争でちょっと一緒におれん時もあつたけど。あとはずっと一緒。
愛 腐れ縁じゃねえ。
桂 腐れ縁じゃねえ。
幸子 ホント天然記念物みたい。
愛 天然記念物って、人を化石みたいな。
幸子 あ。すみません。
桂 ええのよ。化石よねえ、化石。
愛 やっぱ化石かね？ ハハハハ。
桂 ハハハハ。

愛と桂笑う。

幸子 ねえ、仲のいい秘訣ってなに？
桂 ん？ そりゃ隠し事せんことじゃろうね。
幸子 隠し事。
桂 隠し事しよつたら長続きはせんいね。
幸子 へえ。じゃ二人はなんでも知ってるわけだ、お互いのこと。
桂 そりゃ、家のことも、なんもかも。
幸子 じゃ、好きだった男の人のことも？
桂 そりゃそうよ。
愛 桂ちゃん。あんたはいらんこと言わんのよ。
幸子 いいじゃない。聞きたい聞きたい。
愛 昔のこと。みんな忘れた。
幸子 もう。
桂 とにかくね、友だちつくらんにやつまらんよ。翼ちゃんによう言うちよつてちょうだい。勉強も大事じゃけど、友だちが財産じゃって。ね。
幸子 はい。
桂 グッ。(指でOKポーズ)
幸子 友だちで思い出したけど、このごろ坂田さん来られんね。
愛 入院したのよ、病院に。
幸子 あ、そうだったね。
愛 足、骨折してね。
幸子 でもだいぶ前でしょ、それ？
桂 ん……、ありや桜の季節じゃつたから、一年経つかねえ。
愛 退院はしたつちゆうけど。家が遠いからねえ。
幸子 三人娘が揃わんとさみしいわね。
桂 それそれ。わたしら三人いっつも一緒じゃつたからねえ。あんまり仲がええからあんみつ三人娘って呼ばれちよつた。

幸子 あんみつ三人娘？
愛 学校の近くに「たぬき」っていうあんみつ屋があってね。なにか
つちゅうとそこに寄つちよつたから、三人で。
幸子 それで、あんみつ。
桂 たぬき娘つちゅう人もおつたけど。
幸子 いやだ。(ブツと吹き出す)ウフフフフ。
愛 幸子さん。笑い過ぎ。
幸子 ごめんなさい。フフフ。

翼来る。

翼 おかあさん。着替えたよお。

翼、詰め襟の学生服姿。新しい服に身体が飲み込まれている感じ。
愛と桂、初々しい翼の姿に賛嘆の声を上げる。

愛 わあ、翼ちゃん。かっこええねえ。
桂 ええ。ええ。

翼 (桂に) こんにちは。(照れている)

幸子 翼、ぐるっと回ってみて。ぐるっと。モデルみたいに。

翼 (照れて) ええっ！ いいよ。

幸子 いいから。

愛 翼ちゃん。おばあちゃんたちによく見せて。ね。

翼 一回だけだよ。(ぐるっと回る)

愛 ええねえ！

桂 ええ！ ええ！

愛と桂が翼に拍手する。

桂 (愛に) ねえねえ、そっくりじゃない。

愛 え？ だれに？

桂 だれって――。

愛 (すぐに思い当たる) ああ。

桂 学生服のね、着た感じが、生き写しじゃあね。

愛 ホントじゃ、ホント。

幸子 え？ だれにそっくりなの？

愛 おじいちゃんよ。

桂 耕次郎さん。

幸子 お義父さんに？ 翼が？

翼 おれが？ だれに似てるって？

幸子 おじいちゃんよ、おじいちゃん。耕次郎おじいちゃん。
翼 耕次郎おじいちゃんって、おばあちゃんのおじいちゃん？
愛 ちがうちがう。

幸子 おばあちゃんの夫。おとうさんのおとうさん。

翼 ああ。

桂 血は争えんね。

愛 血じゃねえ。

幸子 隔世遺伝って子どもより孫が似るって言うもんね。

桂 それそれ。カクセイカクセイ。

翼 おれ、おじいちゃんにそっくりなの？ なんかキモツ。

幸子 なに言ってるの。

桂 翼ちゃん。翼ちゃんのおじいちゃんはね、そりゃ素敵じゃったん

じゃから。しゅっとして、すらっとして。やさしゅうて。女学生
の憧れの的じゃった。

へえ。

愛 (うれし恥ずかし) モテたのよ、おじいちゃん。

桂 頭もようて、東京の大学に行っちゃったんじゃけえ。

翼 へえ。東京の。

愛 途中で兵隊に取られて、卒業はできんじゃったんじゃけどね。

桂 でもすごいよ。あのころの大学っていったら。

翼 そうなんじゃ。

桂 もうだれが見ても惚れ惚れするような……。耕次郎さんが愛ちゃ
んと結婚したときは、そりゃ、みんながびっくりしたんじゃから
ちよっと待って、桂ちゃん。それどういう意味？

愛 え？ どういうって？

桂 耕次郎さんがわたしと結婚したときみんながびっくりしたって。

愛 言ったそんなこと？

桂 言った。

愛 言っていないよ。

桂 言った。

愛 言っていない。

桂 いや、言った！

愛 おばあちゃん。おれのことだけんかせんで。

翼 していないよ、けんかなんか。

桂 そうよ。わたしら仲ええんじやから。

ト電話の音。

幸子 電話だ。(部屋を出る)

翼 おかあさん、もう脱いでいい？(ついて出ていく)

幸子の声 ちよっと待って、みんなの写真撮るから。
翼の声 (ちよっと不満げ) はあい。

愛と桂。二人ねちねちと。気まずい空気。

愛 あんたがそんなふうに思っちゃったとは知らなかった。
桂 え？ なにが？

愛 なにがって。耕次郎さんとわたしが結婚したときびっくりしたこと。まるでわたしが耕次郎さんと釣り合わんみたいじゃない。わからんもんじゃね。長う付き合っちゃっても人の心は。

桂 またねちねちと。

愛 またってなんかね、またって。

桂 言ったそんなこと？

愛 出た、その台詞。

桂 なに？ その台詞って？

愛 桂ちゃん、都合が悪くなるといつもそれじゃもん。「言ったそんなこと？」。ボケ老人の振りして。

桂 ボケ老人って。ボケちよるのはあんたでしょうがね。

愛 いつわたしがボケた？

桂 ボケちよるのがわからんのがボケちよる証拠なの。

愛 言ったな。

桂 言ったそんなこと？

愛 あ、またワザと。

桂 へ、へ、へ。

陰悪な雰囲気。

幸子来る。

幸子 おかあさん。坂田のおばちゃんが今から来るって。

愛 絹ちゃんが。

幸子 それがもう家の前まで来てるんだって。(ト玄関に去る)

愛 わざわざ電話することないのに。

幸子の声 娘さんが電話してきたの。一緒なんだって。

愛 澄子ちゃん？

玄関のチャイム。「ピンポーン」

幸子の声 はーい。

桂 元気になったんじゃないね。

愛 退院してから一度も病院で顔会わせんから、病気かと思っちよつた。

桂 よう来んのよ、保険料が高いから。

愛 なに言いよるの。あそこは金持ちじゃあね。

桂 じゃったらなんで？

愛 娘夫婦がいじめるんよ。

桂 澄子ちゃんか？

愛 澄子ちゃんの旦那がよ。

桂 よう同居せんかね、娘の親とは。

愛 酒飲みじゃそうじゃから。酔うときついこと言つてらしいよ、ストレスで。

桂 ほうかね。嫌じゃね、エリートも。

幸子来る。

幸子 どうぞ。

絹来る。少し足元がおぼつかない。ヨチヨチ歩き。そのうしろから介添えする心持ちで娘の澄子が来る。

絹のどんよりとした表情が一瞬の晴れ間を覗かせるように輝く。

絹 愛ちゃん！ 桂ちゃん！

愛／桂 絹ちゃん！

愛 どうしたんかね、あんた。

桂 心配しちよったんよ。

絹 愛ちゃん。桂ちゃん。

澄子、幸子を部屋の隅に連れてくる。

澄子 迷ったんですけど……話そうかどうしようか……

幸子 はい……？

澄子 実は……母がボケちゃってて。

幸子 え？（気づいて声を小さくして）おばさんが？

澄子 こないだから入院してたでしょ。その間に急に。

幸子 でも骨折だったって。

澄子 あぶないって言うでしょ、年寄りの骨折は。あれって、ボケにも当てはまるの。

幸子 へえ……。

愛 ええからちよっとすわりなさいね。

桂 アメ食べるかね？ 煎餅は？
愛 お茶飲んで落ち着きんさん。
桂 そんな興奮していっぺんに言っても。
愛 そりゃ桂ちゃんでしょ。
絹 愛ちゃん。桂ちゃん。
愛 なに言いよるんかね。愛はわたし。
桂 わたしが桂でしようがね。相変わらず好きじゃねえ、冗談が。
絹 愛ちゃん。桂ちゃん。

澄子 前ね、畳で転んだんです。なにもないところで。
幸子 畳で。

澄子 今思えばそのときからおかしかったのかも。あつと言う間に。

幸子 見えないけど。そんな風に。

澄子 徘徊するんです。もう疲れちゃって。

幸子 ……。

愛 ホント元気になってよかったね。

桂 足はどんなかね。歩けるかね？

絹 桂ちゃん。桂ちゃん。

桂 うん、うん。歩けるかね。

澄子 共働きでしょ、うち。面倒見切れなくて。冷たい気持ちじゃないんだけど。

幸子 そりゃ、ねえ……。

澄子 運良くあつたんです、空きが。

幸子 空き？

澄子 施設の。主人のお得意さんにつてがあつて。普通は老人ホームな
んてなかなか順番回ってこないんだけど。ちよつとお金も使つて。
幸子 へえ……。

愛 澄子ちゃん、よう絹ちゃん連れてきてくれたねえ。ありがとう。

澄子 おばさん、こんにちは。ご無沙汰してます。

桂 ああ、あんた素敵な服着て。お出かけ。

澄子 ちよつと……母を連れて……。

愛 絹ちゃんも？

澄子 ええ……。

愛 でも、まだ時間ええんじやろ？

澄子 それがあんまり。主人に迎えに来てもらうことにしてるんで。

桂 どこへ行くの？

澄子 え——？（言葉につまる）

桂 ん？

澄子 ちょっと……施設に。

愛 なんの施設かね？

澄子 ええ。それがね、おばさん……

絹 (突然澄子に) どうか存じませんが、どうもご苦労さんでした。

澄子 まあ、かあさん！ いやだ。

澄子、たまらなくなって背を向け涙をこらえる。

愛 また、絹ちゃんの冗談が出た。冗談よ、澄子ちゃん。

桂 これ聞かんと調子出んからね。

愛と桂、笑う。絹もつられて笑みを浮かべたように見える。

幸子が澄子の様子を気にする。

澄子 (涙を拭って) ごめんなさい。幸子さんなら、ほら、わかっても

らえると思うって。気持ち。同じ年寄り抱えてるから。

幸子 元気だからうちは……。

澄子 (幸子の言葉に同意して) ねえ。ホントは黙って施設に入れちゃ

おうかと思ってたんだけど。

幸子 澄子さん。

おばさんたちもシヨックでしょ、母がボケてるって知ったら。でもそれもどうかと思って。なんだかさみしいし。思いが残るでしょ。かと言ってみんなの前でボケてるなんて言うとな本人のプライドもあるし。

幸子 わかるの、おばさん？

澄子 時々ねえ。変なときに。悪口とか言っているとひどく怒って暴れるの。かみついたり。

幸子 うそ。おばさんが？

澄子 そう。これ。(手の甲見せる)

幸子 まあ。

澄子 限界。

翼来る。

翼 ねえ、いつ写真撮るの？

幸子 ちょっと待ってて。今お客さんだから。

翼 早くしてね。(去りかける)

ト絹が立ち上がり、翼の前に来る。

翼 ……あ、こんにちは。
絹 きょうは……おめでとうございます。
翼 (戸惑い気味) どうも。ありがとうございます。
絹 初めて見ました——制服姿。
翼 え？
絹 耕次郎さんの、制服姿。
愛／桂 耕次郎さん？
絹 濡れたでしょ、雨に。
翼 え？ 雨？
絹 行進するお姿を、目に焼き付けようと。(ハンカチを出し、翼の制服を拭こうとする)
翼 え？ なに？
絹 八幡から飛んできたんですわたし。製鉄所で働いてる伯父が東京へ出張するというんで、無理に頼んで。——耕次郎さん。
翼 おばあちゃん。(わけがわからず愛に助けを求める)
愛 絹ちゃん。どうしたの？ これ翼よ。翼。わたしの孫よ。
桂 また絹ちゃんの冗談よ。
絹 ……耕次郎さん……。
愛 しっかりしてよ。耕次郎さんは十三年前に脳卒中で死んだでしょ。死んだ……耕次郎さん……。
絹 びっくりした振りして。じゃけど、間違えるのもしようがないわ。
愛 惚れ惚れするほどそっくりじゃもの、耕次郎さんに。
桂 じゃけど翼ちゃんは高校生よ。
愛 体格がええから大学生に見える。
愛 ほうかねえ。
絹 いい……お孫さんね……。
愛 じゃろう。なんて。孫自慢しちやいけんね。
桂 ええよええよ。翼ちゃんは愛想もようて。男前で。それにおばあちゃん思いじゃし。うちの孫なんか寄りつきやせんからね。
愛 ほうかね。恵ちゃんが？
桂 小遣いやるときだけ。(孫の甘い声を真似て) おばあちゃんつて。
愛 ホントに？
桂 ちゃんと調べちよるんじやから、年金の支給日。
愛 まさか。そりやあんたが年金年金言うからじゃろ。
桂 おばあちゃんあれほしい。おばあちゃんあれ買ってって。
絹 好かん。孫は。
愛／桂 え？

絹 ポケちよる、おばあちゃん。きらい、おばあちゃん。おばあちゃんこつち来んで。……(ブツブツブツブツ)

澄子 もう！ 瑠実たち、一言も言ったことないでしょ、そんなこと。(ブツブツブツブツ)……

気まずい間。

翼 おれ、部屋におるから。

幸子 うん。

翼 写真撮るとき呼んで。(去る)

絹 あ。

絹、翼の去ったあとをじっと見ている。

澄子 (愛たちに) あの、さっきのあれってなんのことでしょう？

愛 え？ あれって？ (耳に手をやる)

澄子 (大きめの声で) さっき母が言ってた、八幡から飛んできたのかなんとかって？

愛 そういやあ絹ちゃん、いつとき八幡に引っ越しちよったからねえ。勘違いでもしたんじやる。

澄子 ああ。

桂 ありや戦争前じやったかね？ 絹ちゃんが引っ越したの。大東亜戦の。

幸子 大東亜戦？

愛 (桂に) あんた、そねいな古いこと言ってもわからんわよ。(幸子と澄子に) フフ。昔はそねい言いよったのよ、前の戦争を。大東亜戦争って。

幸子 そう言われれば。

愛 大東亜共栄圏の建設じゃ。聖戦じゃってね。昔は。(桂に) ね。わたしたら、恥ずかしながら、軍国の乙女じやったからねえ。

愛 じやったねえ。

桂 撃ちてし止まぬ。

愛 欲しがりません勝つまでは。

桂 鬼畜米英われらの敵だ。

愛 この感激を増産へ戦い抜こう大東亜戦。

桂 一億総決起。ぜいたくは素敵だ！

愛 ぜいたくは素敵だ！ ——え。そりやちがうでしょ。

桂 あ。ぜいたくは敵だ、じゃ。

愛 もう！

幸子 やだ。ハハハハ。

澄子

フッフフ。

愛

——でもね。反省、反省。戦争はようないよ。

桂

ようない、ようない。

愛

ねえ。ヨネちゃんも、みっちゃんも。それから、米田の隆さんも。

桂

みんな、みんな……。

桂

ねえ……。

間。

桂

じゃけど、いつまで反省せにやあいけんのかね、わたしら。

愛

そりや、いつまでもよ。

桂

いつまでも、か。

愛

(節つけて) いついつまでも、いつまでも、よ。——あ。そ

桂

うそう、思い出した。

愛

あん時、わたしらになんにも言わんで引っ越してったのよ、絹

愛

ちゃん。

澄子

あん時？

愛

耕次郎さんが東京の大学へ行って、そのあとすぐ。絹ちゃんまで

桂

親戚の所へ行ってしもうて。寂しかったんじやから、わたし。

桂

しょうがないいね。ほら、絹ちゃんのおとうさんが亡くなって、

桂

大変な時期じゃったんじやから。ね。絹ちゃん。

桂

……。

愛

それにしても、よ。

桂

(澄子に) あの頃の八幡製鉄っちゃ、そりや盛んじやったんじ

愛

から。

桂

絹ちゃん。なんであんななんにも言わんで引っ越してったの。あ

愛

んときは哀しかったんよ、わたし。

桂

もうええじゃない。(幸子と澄子に愛の気持ちを解説する) 三人

愛

娘が唯一バラバラじゃったからねえ。そのあと戦争もあつたし。

桂

みんな、わや(滅茶苦茶)。

愛

ねえ、なんでじゃったの。怒らんから言ってみて。

桂

愛ちゃん。

愛

なに？ 怒らんから言ってみて。

桂

……。

愛

絹ちゃん。

桂

どこ、お手洗い？

愛

お手洗い？ もう！ いつも行っちゃったじゃない。そっちの角。

桂

ほうじゃった。(ト立ち上がって部屋を出る)

桂

ボケちゃダメよ、絹ちゃん。ハハハハ。

澄子、幸子に目でサインを送る。

澄子 トイレは大丈夫なんです。不思議に。

幸子 そうですか。

澄子 ……あの、わたし、やっぱり、おばさんたちに言います。

幸子 え？

澄子 このまま一生逢えないなんて、やっぱり。

幸子 (うなずく)

澄子、愛たちの元へ。

澄子 おばさん、あのね。聞いてほしいんだけど。

愛 なに？

桂 ん？

澄子 実はね、うちのおかあさん、ボケちゃってるの。それもかなりひどいの。

桂 え？

愛 絹ちゃんが？

澄子 今もちょっと変だったでしょ。

愛 気づかんじやったけど……

桂 ……いや、変じやった。

愛 あんた、また！

桂 わたしやちよつと感じちよつた。

澄子 入院してる間に急に悪くなってるね。このごろは徘徊もするし、暴れるしで、わたしらの手に負えんの。

愛 信じられん。絹ちゃんがボケちよるじやなんて。

桂 ボケは、あんた、人選ばんよ。総理大臣でもボケるんじやから。

愛 あんたはだれの味方かね。わたしや信じん。信じられん。

幸子 おかあさん。

ト絹帰ってくる。

愛 絹ちゃん。トイレわかった？

絹 どなたか存じませんが、ご親切にありがとうございます。

愛 き、絹ちゃん。(強いショックを受ける)

絹、愛たちに背を向け、部屋の隅に小さく座る。

絹 (脈略なしに歌う) はあるのゝ うらあらあゝ すうみいだあ

がわあゝ……

愛 絹ちゃん……。

幸子 あ。(聞き耳を立てる)

愛 どうしたの？

幸子 トイレの水。出しっぱなし。(駆けて出る)

澄子 すみません。

愛 絹ちゃん。

澄子 (決心して) おばさん聞いて。

愛 なに？ 怖い顔して。

澄子 あのね、母をね、老人ホームに預けることにしたの。今から行く
とこなの。

愛 老人ホームに。

桂 ほうかね。

澄子 怒られるかもしれんけど、おばさんたちに。

桂 なにを怒ろうかね。そりゃあシヨックじゃけど。わたしらよりも
もっともつとあんたの方が苦しんじよるんでしょ。わかるよ、わ
たしは。

澄子 おばさん。

愛 ……。

桂 それに今ごろはね、ホームに入れてもらえる方がどれだけ有り難
いか。そう思う人もようけ(たくさん)おってんじやから。幸せ
じゃって。

愛 わたしは信じん。信じんよ。桂ちゃん、なんかええ方法ない？

桂 絹ちゃんを元に戻す。

愛 ええ方法っても。

桂 びつくりさせたらどうじゃろねえ。

愛 びつくり？

桂 あれあれ、なんとか言うた……

愛 シヨック療法。

澄子 ダメダメ、逆効果になっちゃって。下手に刺激すると感情乱して
大変なんです。暴れ出して。

絹 小さいあゝ 小さいあゝ チュウリップのはながゝ……

愛 (絹の肩を抱く) 絹ちゃんうそじゃろ。うそじゃって言って！

桂 愛ちゃん！

幸子、戻ってきている。

翼来る。

翼 おかあさん。(愛たちをチラッと見て) あれ、なんかあったの？

幸子 ちよつとね。
翼 ……。
幸子 ん？ なに。
翼 これ。(ト一枚の紙切れを幸子に渡す)
幸子 なに？ (紙切れになにか書いてあるが字が汚くて読めない) 汚い字ねえ。
翼 坂田のおばあちゃんに。
幸子 え？
翼 読んでって、渡された。さっきそこで。
澄子 うちのおかあさんが？
翼 はい。
愛 どうしたの？
幸子 おばさんが、翼にこれを渡したんだって？
愛 絹ちゃんが？
桂 なんて書いてあるの？
幸子 うゝん……
澄子 (横から読んで) ……「お話があります。式が終わりましたら、少しかけてお時間下さい。絹」
幸子 なに、これ？ ラブレター？
愛 まさか？ 翼ちゃんに。
翼 うそ。マジで？
幸子 でもお話がありますって？
桂 もしかして、耕次郎さんに話があるんじゃないの？
愛 ええ？
幸子 おじいちゃんに？
桂 絹ちゃん、翼ちゃんのことを耕次郎さんと思込んでしまったでしょ。じゃから、もしかして。
幸子 なるほど。
桂 なにか思い残しがあるんじゃないの。
幸子 思い残し？
翼 なにそれ？ 思い残して。
桂 わからんけど。なにか伝えたいことがあるんじゃないだろうか。伝えられなかったことが。
幸子 おかあさん、なにか心当たりある？
愛 いんや、全然。
澄子 大切な思い出かしら。
愛 思い出？
澄子 昔のことは思い出すみたいなんですよ。昔にタイムスリップしたみたいに。そのときだけはしんとして昔のままの母なんです。

愛 じゃ、耕次郎さんと話すときは絹ちゃんも昔のままに戻るって
と？

澄子 たぶん。一時的には。

愛 (思い入れて)よし。

桂 よしってなによ？

愛 そこから絹ちゃんを元に戻そう。

桂 愛ちゃん。無理じゃって。

愛 ええから、黙っちよって。

桂 ……。

愛 翼ちゃん。お願いがあるの。一生のお願い。

翼 なに急に？

愛 おじいちゃんになって。

翼 ええ？ おじいちゃん？

幸子 おかあさん。

愛 翼ちゃんに耕次郎さんになってもらうの。

桂 耕次郎さんに？

愛 翼ちゃん。いつときでええからおじいちゃんの振りしてみて。絹
ちゃんが元に戻るかもしれないから。元に戻らんでもね、その思い
残しをね、伝えさせて上げて。ね、この通り。

翼 無理だよ。

幸子 翼。おばあちゃんの一生の頼みなんだから。
でも。

翼 あんたにも親友おるでしょ。おばあちゃんの気持ちわかるでしょ。
でも。

幸子 もう！ でもじゃないの。おばあちゃんの一生って短いんだから。

愛 幸子さん！

幸子 あ。ごめんなさい。

翼 わかるけどさ。気持ち。

愛 翼ちゃん。

澄子 わたしからも。

翼 ウーン……。

幸子 翼。

桂 わたしも、お願いするよ。

愛 (うれしい) 桂ちゃん。

翼 わかったよ、もう。

愛 ありがとうね。

翼 その代わり……

幸子 その代わり、なによ？

翼 来月からおこずかいアップしてよ！

幸子 現金なんだから。

愛 おばあちゃんがお小遣いあげるから。
翼 よおし！
絹 ♪おてえてえ〜 つないでえ〜 のみちをゆけば〜……
翼 でもどうすればいいの？
幸子 演技よ演技。おじいちゃんになりきったつもりで。
翼 演技っても。見たことないもん、おじいちゃん。
桂 ほうかあ。
愛 翼ちゃんの赤ちゃんのころじゃったね、おじいちゃん死んだの。
幸子 だったらね、こうしてみて。この言葉だけ使ってみて。「そうですね」と「なぜです？」。それから「いいかもしれない」。この三つの言葉でなんとかつないでみて。あとはこつちで指示出すから（身振り手振りで）。
翼 う、うん。「そうですね」「なぜです？」「いいかもしれない」だね。でもちよつと不安。
幸子 大丈夫。いい。おばさんにシヨック与えつちやダメよ。とにかく相手の言う通りに。ね。おばさんの大切な思い出かもしれないんだから。
翼 わかったよ。
澄子 でも、そうだ。式って、入学式のことでしょうか？
幸子 そうじゃないのかな？
澄子 じゃ、場所は？
桂 「たぬき」じゃろ。
澄子 たぬき。
桂 あんみつ屋。わたしらなにかつちやあたぬきに寄りよつたから。ね、愛ちゃん。
愛 そうじゃろうね。
幸子 じゃ、入学式のあと、たぬきであんみつ食べながら（チラツと絹を見て）ご機嫌に歌をうたって待っている若き日の絹さんの所へ、紅顔の美青年、大学生の耕次郎が話しかけるシーンから行くわよ。「絹さん、話ってなんでしよう？」。いい？
翼 なんか映画監督になつてる。
幸子 いいのよ。
愛 翼ちゃん、頼んだよ。
翼 うん。
愛 胸しゃんと張つて。ええ男じゃったんじゃから、おじいちゃんはうん。
幸子 ヨーイ、アクション！

翼、胸をしゃんと張つて絹に近づいていく。愛と桂、幸子と澄子は部屋の隅でそれを見守る。

翼 あの、絹さん、話ってなんでしよう？

絹 (振り向いて、しばらく翼の顔をぼうつと見ていたが、目に急に輝きが戻り) 耕次郎さん。

翼 いいかもしれない。——じゃなかった。そうですね。

絹 来てくれたんですね、耕次郎さん。お呼びだてしてごめんなさい。

翼 (最初は言葉を探りつつ) な、なぜです？

絹 だって、お忙しい身体なのに。それなのにわたし——こんな所まで。

翼 なぜです？

絹 もう二度とお目にかかれないかもしれない——そう思っただけ。伯父に無理言っただけで、明治神宮外苑まで連れてきてもらったんです。

愛／桂 明治神宮外苑？

翼 なぜです？

絹 きっとあなたのお姿を見つけることができます。たとえ何人、学徒兵のみなさんがいらっしやろうと。

愛／桂 学徒兵？

絹 でも、耕次郎さんが、わたしを見つけてくれた。びしょぬれで破れた日の丸の小旗を振るわたしを。行進中なのに、わたしに敬礼して下さいましたね。

愛／桂 行進中？ 敬礼？

幸子 (小声で) 翼。行進行進。

翼 (行進の真似)

幸子 (小声で) 敬礼敬礼。

翼 (敬礼の真似)

絹 でもわたし、来ちゃいけなかったんです。

翼 なぜです？

絹 だって——この晴れの日に。学徒出陣の晴れの日に。

愛／桂 学徒出陣？ ——ああ！ (それがいつの場面なのか思い至る)

絹 出陣学徒壮行会を見守るのは——わたしでなくて。愛ちゃんが、ふさわしい。

翼 そうですね。

絹 でもわたし——来たんです。汽車に乗って。いても立ってもいられなくなつて。

翼 なぜです？

絹 わたし、耕次郎さん——

翼 ？

絹 ——あなたのことをお慕いしていました。(ト翼の腕にそっとすがる)

愛／桂 ええ！

幸子 (傍白) ああ、やっぱりそんな予感が！

絹 ずっとずっと耕次郎さんのことを。

翼 いいかもしれない。

絹 本当に。本当にそうお思いになる？

翼 なぜです？

絹 だって耕次郎さんには、愛ちゃんが……

翼 なぜです？

絹 だって二人は親同士が決めた相手なんですよ。

翼 そうですね。

絹 でも、もしももしも、わたしのことを好いて下さっているのなら、

翼 そうですね。

絹 耕次郎さん、——愛と別れて！

翼 いいかもしれない！

絹 耕次郎さん！(翼の腕に強くすがる)

愛 うぎぎぎぎい。(嫉妬の炎がメラメラと)

桂 愛ちゃん落ち着いて。思い残し思い残し。

幸子 (小声で) バカ！ 翼！

翼 いや、その、なぜです？

絹 わたしの方が好みだとおっしゃったじゃありませんか。愛よりきれいだし、わたしの方が可愛いって。(恥じらう)

翼 そうですね。

愛 そうですねって、くやしっ！

幸子 おかあさん、演技演技。

絹 でも、ダメ、やっぱり。

翼 なぜです？

絹 愛を傷つけてしまう。

翼 そうですね。

絹 耕次郎さん。——一度だけわたしを抱いて下さい。

翼 ええ！

絹 ごめんなさい。こんなはしたないこと言っ。でも逢えないと思うと、抑えきれなくて。やっぱりダメですね。

翼 い、いいかもしれない。

絹 耕次郎さん！(翼の胸に)

愛 うーん。(気を失う)

幸子 おかあさん！

絹 いいえ、ダメダメ。わたし知ってるんです。耕次郎さんは愛ちゃんを愛してる。耕次郎さんはいつも愛ちゃんのことばかり話してた。

翼 そうですね。

絹 わたしだから、愛ちゃんの前から消えようと、なにも言わず八幡へ――。

翼 いいかもしれない。

絹 耕次郎さん。一度だけでいいです。わたしのこと、絹と呼んで下さい。絹と呼び捨てに。

翼 なぜです？

絹 その思い出だけで、強く生きていける気がするんです。たとえ――

――あなたが――。

翼 (幸子の方を振り向いて小声で) どうしよう？

幸子 (「やれやれ」と手振り以示す)

絹 耕次郎さん。

翼 (たっぷりと) 絹。

絹 (翼の胸に顔をうずめる) ああ！ ありがとう。ありがとう。きょうのことは大切な思い出にせずとわたしの胸にしまっておきます。

翼 いいかもしれない。

絹 わたし、行きます。武運長久をお祈りします。それじゃ。

愛、絹の前へ。

幸子 あ、おかあさん。

愛 絹ちゃん。

絹 愛ちゃん。来てたの？

愛 うん。

絹 そうよね。当たり前よね。

愛 うん。

絹 怒ってる？

愛 全然。

絹 うそじゃ。

愛 ちょっとね。

絹 うそじゃ。

愛 ものすごく怒ってる。じゃけど、平気。

絹 ごめん。

愛 ううん。(首を横に振る)

絹 愛ちゃん。

愛 絹ちゃん。(微笑む) フッフ。

絹 フッフ。

愛 桂ちゃんもおるよ。

絹 フッフ。

桂 フッフ。

ト車のクラクションの音。

澄子 迎えの車だ。おかあさん。そろそろ。

愛 絹ちゃん、行っちゃいけん！（絹に抱きつく）

桂 絹ちゃん！

愛 愛ちゃん。桂ちゃん。

絹 絹ちゃん。絹ちゃん。

桂 オーヨヨヨヨ。（泣く）

絹 きっと帰ってくるから。ね。ね。友だちじゃから。友だちじゃろ、

わたしら。

愛 うん。ずっと友だち。ずっとずっと。

桂 仲良し三人娘じゃからね、わたしら。

澄子 行きましょ。（一瞬考えて）——絹ちゃん。

幸子 あ、そうだ。待って。写真撮るから。写真。並んで並んで。ほら、

翼も。

翼 え？ おれも。

幸子 あんたは耕次郎さんよ。

幸子、翼を真ん中に仲良し三人組を並ばせる。

絹 （ポーズを取りながら）この戦争が終わったら、わたしきつと戻

ってくるから。ね。

愛 絹ちゃん！

桂 絹ちゃん、待っちよるよう！

幸子、みんなの写真を撮る。翼は敬礼姿。

澄子 それじゃ。行こう、おかあさん。

絹 うん……。 （灯火が消えたように大人しくなっている）

絹、澄子に付き添われて去る。

愛 絹ちゃん。絹ちゃん……。

幸子 おかあさん。（愛の手をギュッと握る）

愛 幸子さん。

幸子 わたし、どんなことがあってもおかあさんをどこへもやったりし
ないから。

愛 ありがとう。ありがとう。

ト突然桂、翼に近づき、翼の手をギュッと握る。

桂 耕次郎さん。

翼 え？ なに？

桂 わたし、どんなことがあっても耕次郎さんのそばを離れんから。

愛 桂ちゃん？

桂 わたしも耕次郎さんを——お慕いしております。

翼／幸子 ええ！

愛 桂ちゃん！

桂 きっと帰ってらっしゃると、桂は小さな胸を焦がしてお待ち申しております。

愛 桂ちゃん！ あんたなに言いよるの？

桂 あ、ごめん。つい昔の秘めた思いが——

愛 秘めた思い？

桂 愛ちゃん、ごめんね。いやなの、わたしも！ 思い残して死ぬのはいや！ 耕次郎さん！ わたしを抱いて！

愛 桂ちゃん！

桂 だってあの夜、やさしい言葉をかけてくれたのは耕次郎さんなんじゃもの！

愛 きーっ！（嫉妬の炎が大炎上） 耕次郎さん、あんたって人は！ 浮気ばかり！ わたしがどれだけ苦労したか！ バカバカバカバカ！（翼を叩く）

翼 おばあちゃん。おれおれ。翼だよ！

愛 もう許さん！（翼を追いかけ回す）

桂 耕次郎さん！（翼を追いかけ回す）

幸子 いくつになっても女は女ね。

愛 待て〜！

桂 耕次郎さ〜ん！

翼 助けて〜！

幸子 でもなんかいい、恋って。

翼 おかあさん、のんきなこと言っていないで助けてよ！

幸子 ごめんごめん。おかあさん落ち着いて！ おかあさん！ おかあさん！

愛 待て！ この浮気男！

桂 耕次郎さ〜ん！

幸子 もう！ コラー！ 言うこと聞かないと二人ともどっかへやっちやうわよ！

愛と桂、ピタッと止まる。
不気味な間。

愛／桂 ……へ、へ、へ。やれるもんならやってみさん（やってみなさい）。

幸子 おかあさん！

愛／桂 フッフッフ。

幸子／翼 （ちよっと引きつった笑い）ハハ、ハハハハ……。

皆、笑い合う。

（幕）

連絡先 広島友好
住所

〒755-0039

山口県宇部市東梶返3丁目18-7-1

又は

〒754-1311

山口県宇部市大字小野102番地渡邊方

電話番号 08836-6242065

又は 08836-642289（渡邊）

メールアドレス hiroshimatomoyoshi@yahoo.co.jp